



令和7年度 「博物館機能強化推進事業(専門の人材派遣)」

募集要項



1. 募集の目的

1. 募集の目的	
(1) 本事業の背景	p3
(2) 本事業の概要	P4
(3) 募集の目的	P5
(4) 応募のフロー	p6
2. 募集の内容	
(1) 本事業の体制	p8-9
(2) 業務内容	p10-14
(3) 事業スキーム	p15-16
参考：昨年度支援事例	p17-19
3. ご依頼の条件	
(1) 事業期間	p21
(2) 支援時間	p22-24
(3) 支援人数	P25
(4) 謝金の考え方	p26
4. 募集要項	
(1) 募集数	p28
(2) 応募対象者	p29
(3) 応募に必要な項目	P30-31
(4) 応募後の流れ・スケジュール	p32
(5) よくある質問	p33

1. 募集の目的

(1) 本事業の背景

- 博物館に求められる役割の多様化・高度化を受け、博物館法が改正され、博物館運営は転換期を迎えています

博物館を巡る国内動向

- まちづくり・国際交流、観光・産業、福祉等の関連機関との連携（文化芸術基本法）
- 地域文化財の計画的な保存・活用の促進（文化財保護法）
- 文化観光拠点施設としての役割（文化観光推進法）

国際的な潮流

- 「文化をつなぐミュージアム」として社会的・地域的課題と向き合うための場（ICOM京都大会）

博物館に
求められる役割が
多様化・高度化

博物館法の改正

- デジタル・アーカイブの作成と公開が博物館事業に
- 多様な主体と連携した地域の活性化への寄与が努力義務化
- 博物館の持続化と発展のための好循環の形成や経営基盤強化を見据える必要性 等

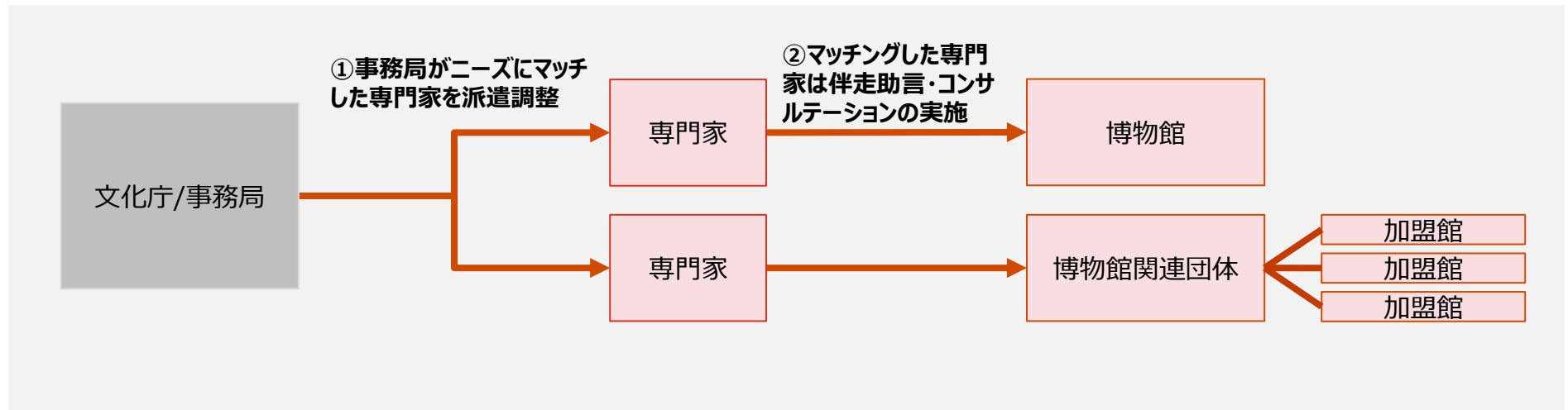
1. 募集の目的

(2) 本事業の概要

- 本事業では、博物館や博物館関連団体等が課題を認識しながらも取り組むだけのリソースが不足しているという現状を踏まえて、全国の博物館が抱えている館毎の課題に対応可能な専門家を派遣し、伴走型の支援を実施します

本事業で取り組むべきこと

- 全国の博物館の多くは、前述のとおり、人員、予算や課題解決に必要なノウハウの不足、またその不足からくる学芸員の慢性的な業務多忙などを理由として、課題を認識しながらも真正面から取り組むだけのリソースが無いというジレンマに陥っています。
- そこで、自ら課題を認識しながらも人員、予算やノウハウ不足などの理由により取り組めていない博物館や博物館関連団体等に対して、**専門家である皆様を派遣し、伴走支援を実施していただきます。**



1. 募集の目的

(3) 募集の目的

- 本公募では、全国各地の様々な知見を持つ専門家の方にご参画いただくことを目的に、募集を行います
- 個人・法人問わず、公的事業に参加する上での最低限の条件を満たした、支援テーマに関連する実績を持つ専門家を募集しております

募集の目的

- 全国各地から様々な知見を持つ専門家の皆様に本事業にご参画いただくこと
 - 必ずしも博物館への支援実績を有さずとも、本事業のテーマに関連する事業実績をお持ちの専門家にも本事業にご参画いただけます
- 選考を実施し、支援候補者として採択された専門家の皆様のリストを作成して、本事業サイトに公開すること（リストは年度毎に更新される予定です）[詳細後述](#)

応募対象

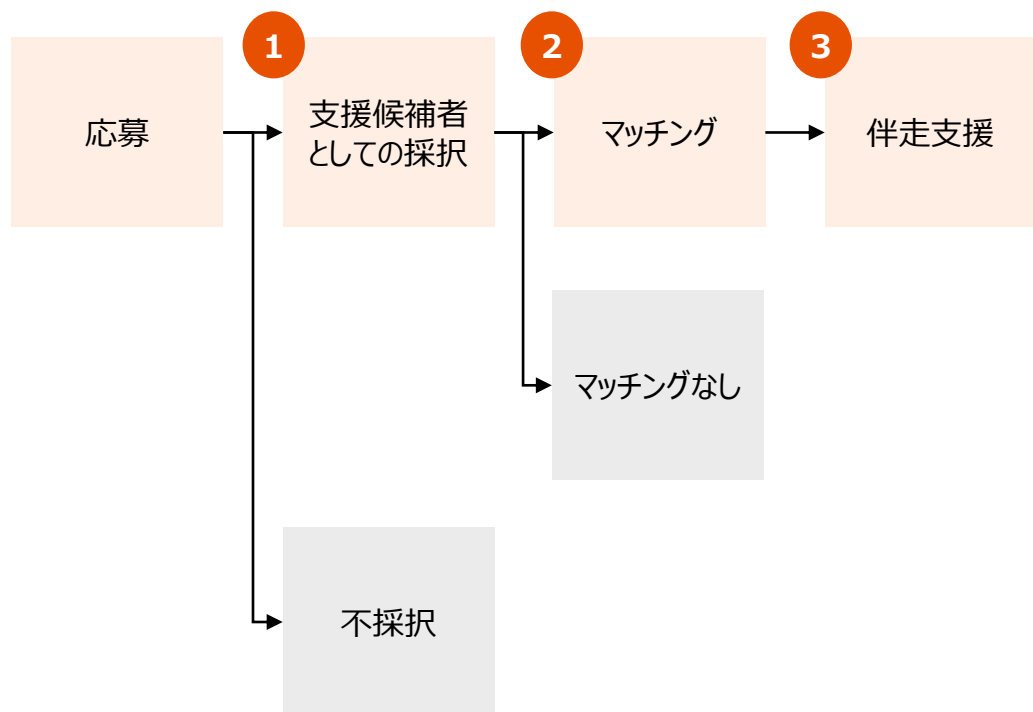
- 個人・法人は問わない
- 公的事業に参加する上での最低限の条件を満たしている者
 - 暴力団（暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）第2条第2号に規定する暴力団をいう。以下同じ。）又は暴力団員（同法第2条第6号に規定する暴力団員をいう。以下同じ。）でない者であり、かつ暴力団又は暴力団員に参与していない者
 - 応募時点で文部科学省の支出負担行為担当官等から取引停止の措置を受けている期間中でない者
- 本事業の下記3つのテーマのうちいずれかに関する十分な支援実績、あるいは事業実績がある者（必ずしも博物館を対象にしたものに限らない）
 - デジタルアーカイブ、コンテンツ造成支援、知識・技術の提供
 - 展示や広報発信の改善を行うための支援、知識・技術の提供
 - ファンドレイジング活動支援、知識、技術の提供
- 博物館を支援するための十分な資質・経験を持つ者
- 本事業の趣旨について理解し、事務局の指示に従って支援を行うことができる者

1. 募集の目的

(4) 応募のフロー

- 本公募では、ご応募いただいた専門家のうち、支援候補者として採択された方のリストを作成し、事業HPで公開する予定です（リストは年度毎に更新される予定です）
- 支援候補者の中から、各館の課題との親和性などを踏まえてマッチングを実施するため、支援候補者として採択された場合であってもマッチングされない場合がある点についてはご注意ください。

応募から支援までのフロー



各フローの詳細

- 1 支援候補者としての採択**
 - ✓ 書類選考や面接選考を経て、支援候補者を採択いたします
 - ✓ 採択された場合、マッチング終了後に、マッチングの有無に関わらず**本事業HPに専門家リストとしてお名前等を公開いたします**（リストは年度毎に更新される予定です）
- 2 マッチング**
 - ✓ 支援候補者として採択された専門家の専門性と博物館の課題内容を踏まえてマッチングを実施します
 - ✓ 支援候補者として採択された場合であっても、必ずしもマッチングされない場合がある点についてはご注意ください
- 3 伴走支援**
 - ✓ マッチングが成立した専門家の皆様には博物館への伴走支援を実施していただきます

詳細後述

2. 募集の内容

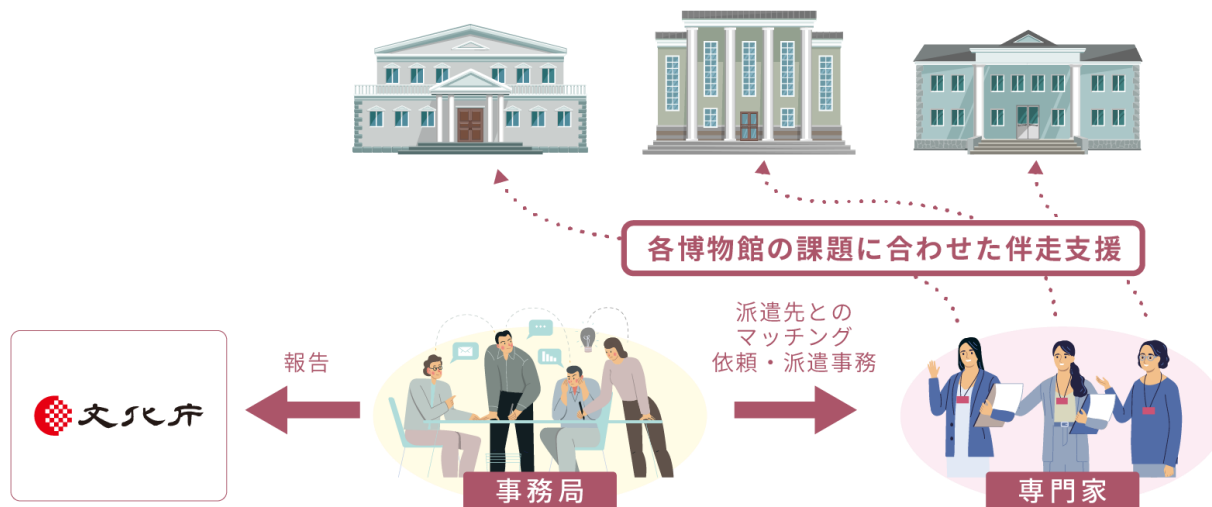
2. 募集の内容

(1) 本事業の体制 ① 博物館等

- 博物館等への支援について、事務局が専門家・博物館の採択を実施し、博物館の課題内容を踏まえてマッチングを実施します
- 専門家はマッチングされた博物館・関連団体等への助言・コンサルテーションを実施します

博物館等への支援

本事業の体制



伴走支援の内容

博物館に対する伴走支援の具体的イメージ

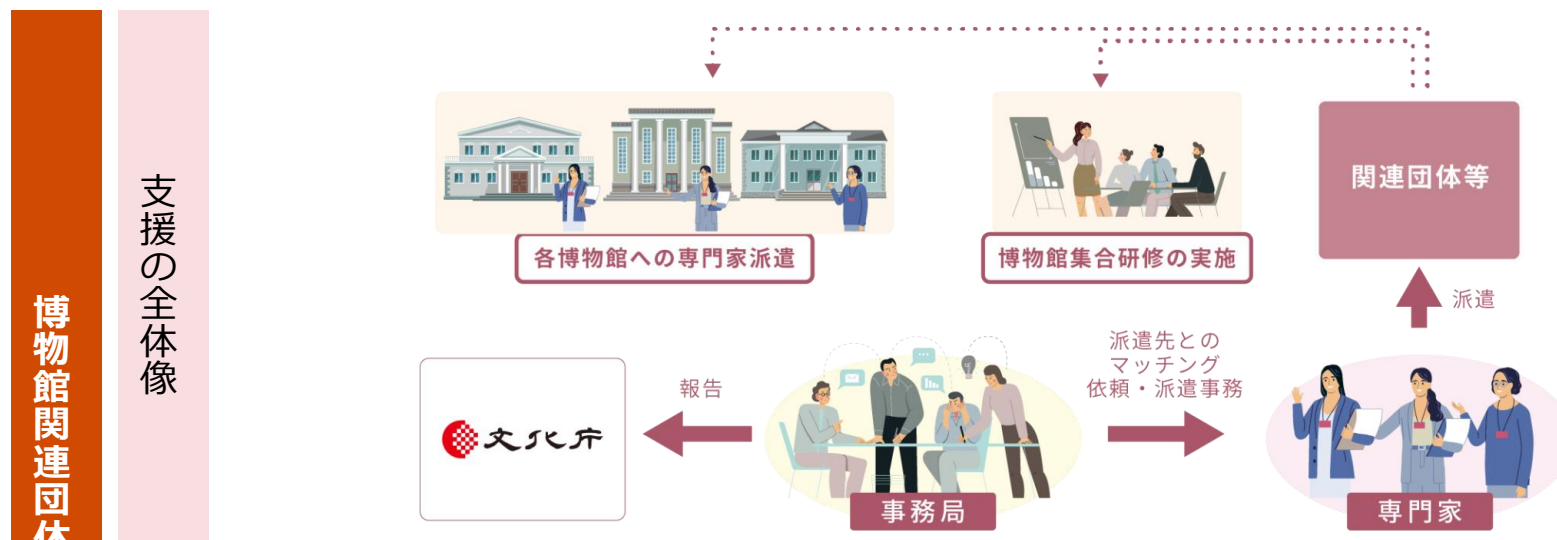
- 本事業で各館が抱える課題を解決する主体は博物館の皆様です。
- 各テーマの専門家は、**博物館が自ら実施する課題解決に向けた取組に伴走し、各館の現状を踏まえて専門的知見に基づいて助言やコンサルテーションを実施いたします。**

例) 収蔵品のデジタルアーカイブ化に向けて、一般的に注意すべきポイントに加えて館の現状を踏まえた作業手順等のアドバイスを受けて、館自身でロードマップを作成していく

2. 募集の内容

(1) 本事業の体制 ② 博物館関連団体等への支援

- 博物館関連団体等への支援について、事務局が専門家・博物館の採択を実施し、博物館の課題内容を踏まえてマッチングを実施します
- 専門家はマッチングされた関連団体等への助言・コンサルテーションと全体への研修・ワークショップの2種類の支援を実施します



博物館関連団体等に対する伴走支援の具体的イメージ

- 本スキームでも各館が抱える課題を解決する主体は博物館の皆様です。
- 各テーマの専門家は、博物館関連団体等に派遣されたうえで、**①②双方の支援を実施します。**
 - ①加盟または連携する館が自ら実施する課題解決に向けた取組に伴走する、**各館の現状を踏まえて専門的知見に基づいた助言やコンサルテーション**（例は博物館と同様）
 - ②中核館に加えて加盟または連携する館まで含めた**全体研修、ワークショップ**
- 伴走支援を受けることで、専門家が課題解決を行う場合と比して、博物館の学芸員や職員等が課題解決に継続的に取り組むためのノウハウとスキルを習得することが可能

2. 募集の内容

(2) 業務内容 ①全体

- 本事業では3つのテーマのうちいずれか1つ以上のテーマの支援を行うことができる専門家を募集します
- テーマの一部について支援が可能であれば応募対象になるため、詳細はp.11-13をご確認ください

テーマ

デジタルアーカイブ、
コンテンツ造成支援、
知識・技術の提供

展示や広報発信の
改善を行うための支援、
知識・技術の提供

ファンドレイジング活動
支援、知識、技術の提供

各テーマにおける具体的な支援内容



- 博物館におけるデジタルアーカイブの作成やDXに資するような整備、資料の価値や魅力を伝えるためのコンテンツ造成などの支援



- 博物館の持つミッションや目的に沿った効果的な展示や、観覧者の満足度を向上させるための支援
- 博物館が有するコンテンツや魅力を最大限伝えるために広報発信の改善を行うための支援



- 運営資金獲得方法の多角化、特定事業の財源獲得等を通して、博物館活動の充実につなげるための、戦略的かつ持続的なファンドレイジングに関する支援

2. 募集の内容

(2) 業務内容 ②デジタルアーカイブ、コンテンツ造成支援、知識・技術の提供

- 本テーマでは、デジタルアーカイブの推進、デジタルコンテンツの充実の2つのカテゴリで博物館の課題に対して支援が可能な専門家を募集しております
- 応募時には、支援が可能な課題例を選択いただきます

派遣対象となる事業内容	主なカテゴリ	博物館の課題例
デジタルアーカイブ、コンテンツ造成支援、知識・技術の提供	デジタルアーカイブの推進	<p>多くの博物館において、資料や目録のデジタル化が進んでおらず、Webサイトでの公開やデータ連携が不十分</p> <p>デジタルアーカイブの基本的な知見が不足している</p> <p>目録作成に関する知見が不足している</p> <p>メタデータ的设计に関する知見が不足している</p> <p>スキャン等、資料のデジタル化への対応が難しい</p> <p>デジタルアーカイブの構築に関する知見が不足している</p> <p>公開用サイトの構築・運用ができていない</p> <p>Japan search等のプラットフォームとの連携ができていない</p> <p>著作権や肖像権等の知的財産権のアーカイブに関する扱い方に関する知見が不足している</p>
	デジタルコンテンツの充実	<p>デジタル技術を活用した新しい鑑賞・体験モデルの構築が十分に進んでいない</p> <p>ICTを導入した新しい鑑賞・体験モデルの企画ができていない</p>

関連する実績を有し、いずれか一つに対して支援可能であれば応募可

2. 募集の内容

(2) 業務内容 ③ 展示や広報発信の改善を行うための支援、知識・技術の提供

- 本テーマでは、展示の改善と広報の改善という2つのカテゴリで博物館の課題に対して支援が可能な専門家を募集しております
- 応募時には、支援が可能な課題例を選択いただきます

派遣対象となる事業内容	カテゴリ	博物館の課題例
展示や広報発信の改善を行うための支援、知識・技術の提供	展示の改善	博物館のミッションや目的に沿った、効果的な展示や来館者の満足度を向上させる取組等の企画・運営が十分にできていない
		展示資料が持つ多様な価値や魅力を来館者に分かりやすく提供できていない
		情報の取捨選択や、多様な来館者視点で「翻訳」するノウハウが不足している
	広報の改善	ワークショップイベント等の改善や企画・運営、評価検証についての知見が不足している
		広報全般に関する知見が不足している
		インターネット・SNSを通じた広報や交流活動が十分にできていない
		テレビやラジオなどその他のメディアに適した広報活動が十分にできていない

関連する実績を有し、いずれか一つに対して支援可能であれば応募可

2. 募集の内容

(2) 業務内容 ④ファンドレイジング活動支援、知識・技術の提供

- 本テーマでは、支援の受け付けと持続的な資金獲得という2つのカテゴリで博物館の課題に対して支援が可能な専門家を募集しております
- 応募時には、支援が可能な課題例を選択いただきます

派遣対象となる事業内容	カテゴリ	博物館の課題例		
ファンドレイジング活動支援、知識・技術の提供	支援の受け付け	個人からの支援を十分に獲得できていない	通常寄付や友の会等のメンバーシップ会費など個人からの支援を十分に獲得できていない	
		民間企業からの支援を十分に獲得できていない	民間企業からの運営支援や協賛等のスポンサーを十分に獲得できていない	
	持続的な資金獲得	ファンドレイジングの各手法の理解と、戦略的かつ持続的な実施ができていない	クラウドファンディングなどの取組が単発的になってしまう	ふるさと納税の活用が十分に行われていない
			遺贈寄附に繋げていくような支援者育成が十分に行われていない	

関連する実績を有し、いずれか一つに対して支援可能であれば応募可

2. 募集の内容

(2) 業務内容 参考：想定される業種

- 下記のような多様な業種の皆様にご応募いただきたく存じます（博物館支援経験有無は問いません）
- 下記の業種以外にも、本事業の各テーマに関する知見を有する方からのご応募をお待ちしております

テーマ	デジタルアーカイブ、コンテンツ造成 支援、知識・技術の提供	展示や広報発信の改善を行う ための支援、知識・技術の提供	ファンドレイジング活動 支援、知識、技術の提供
主な業種	<ul style="list-style-type: none">• デジタルアーキビスト• デジタルアーカイブ事業者• デジタルコンテンツ制作の専門家• 等	<ul style="list-style-type: none">• 各種メディア関係者• コピーライター• 展示制作に関する事業者等	<ul style="list-style-type: none">• ファンドレイザー• クラウドファンディング事業者等
専門スキル	<ul style="list-style-type: none">• 資料をデジタル化して保存する専門知識を持つ人材• 博物館が有する魅力や価値をデジタルコンテンツ化していくための人材	<ul style="list-style-type: none">• 資料の価値や魅力を伝える解説等の改善や、映像・音声コンテンツを作る専門知識を持つ人材	<ul style="list-style-type: none">• 活動の充実のためのファンドレイジングやパブリックリレーションズの専門知識を持つ人材

2. 募集の内容

(3) 事業スキーム ①全体

- ・事務局にて、ご応募いただいた専門家の皆様を選定させていただき、博物館の課題を踏まえてマッチングを実施します
- ・マッチング後は初回面談（謝金対象外）を実施し、具体的な支援日程・内容等について博物館と調整をして支援を進めていただきます
- ・支援終了後には、謝金等支払いのための手続きにご協力いただくほか、事業改善のためのヒアリングを依頼させていただく場合がございます

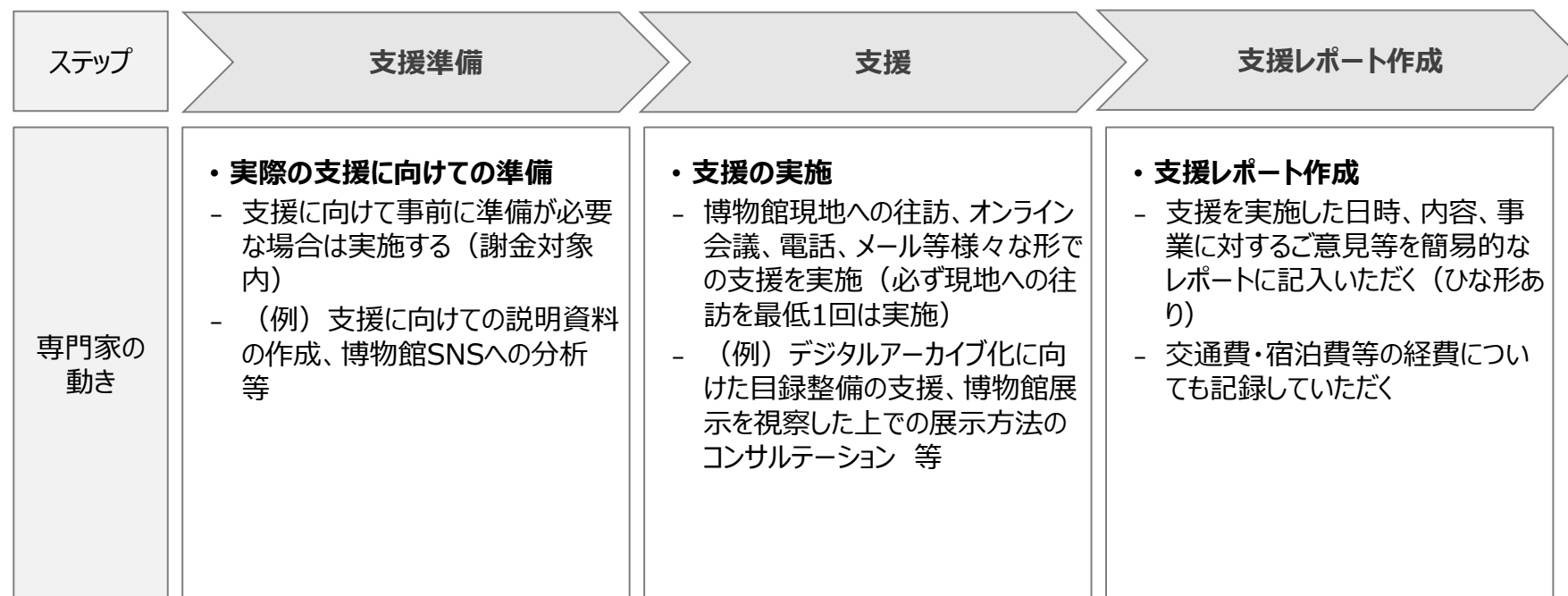
事業スキーム

ステップ	応募・選定	マッチング	支援	支援終了後
博物館側	<ul style="list-style-type: none"> ・説明会参加 <ul style="list-style-type: none"> - 応募に際して必要な情報を文化庁・事務局からお伝え ・事業応募 <ul style="list-style-type: none"> - 対象課題に対して応募 ・採択 <ul style="list-style-type: none"> - 事務局にて審査・抽選を行い採択館・団体を決定 	<ul style="list-style-type: none"> ・初回面談 <ul style="list-style-type: none"> - 応募した課題とマッチした専門家（文化庁と事務局でアテンド）と顔合わせ - 支援内容についての希望を基に、具体的な内容等を調整する 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援を受ける準備 <ul style="list-style-type: none"> - 人材養成を目的とした支援を受ける体制を整える ・支援を受ける <ul style="list-style-type: none"> - 専門家からの支援を受ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・養成人材による課題対応 <ul style="list-style-type: none"> - 支援中に要請した人材によって課題解決に取り組む ・簡易レポート対応 <ul style="list-style-type: none"> - 事務局が依頼した照会に対応する
専門家側	<ul style="list-style-type: none"> ・公募への応募 <ul style="list-style-type: none"> - 事業サイトから応募していただく ・採択・マッチング <ul style="list-style-type: none"> - 博物館側の課題や採択された専門家の専門性を踏まえて、マッチングが決定される 	<ul style="list-style-type: none"> ・初回面談 <ul style="list-style-type: none"> - 専門性とマッチした博物館（文化庁と事務局でアテンド）と顔合わせ - 博物館の希望や事業の趣旨等を踏まえて、具体的な支援内容・方向性を提案 - 初回面談は謝金対象外 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援準備 <ul style="list-style-type: none"> - 博物館の人材養成を目的とした支援の準備を実施 ・支援を実施 <ul style="list-style-type: none"> - 博物館への支援を実施 ・（毎支援後）事後報告 <ul style="list-style-type: none"> - 支援後に事務局への内容を報告 詳細後述 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援振り返りインタビュー対応 <ul style="list-style-type: none"> - 事務局から依頼されたインタビューに可能な範囲で対応する（謝金対象外） ・経費等の対応 <ul style="list-style-type: none"> - 謝金や経費を申請、修正依頼等に対応する
時期	8月	8～9月	9月～2月	支援終了後～3月上旬

2. 募集の内容

(3) 事業スキーム ②支援の流れ

- ・準備が必要な場合は支援前に準備を実施した上で、実際に支援を行ったのち、簡易的な支援レポートに支援内容等をご記入いただく予定です



参考：昨年度支援事例 ①デジタルアーカイブ分野

- デジタルアーカイブの推進を目指す、どのような選択肢があるか理解できていない博物館に対して、歴史資料のスキャンングを得意とするデジタルアーカイブ事業者が支援を実施し、博物館にとって最適なシステムを特定することができました

Player① 博物館

名称	大阪府立近つ飛鳥博物館
所在地	大阪府南河内郡河南町
来場者数	72,663 名（2022 年度）
館種	歴史
設置者	都道府県
法区分	登録博物館
課題	<ul style="list-style-type: none"> 考古資料を中心とする館蔵資料について、デジタルアーカイブ化を推進したいが、方法について技術的にどのような選択肢があるか理解できていないという課題あり

Player② 専門家

概要	<ul style="list-style-type: none"> 歴史資料のスキャンングを得意とするデジタルアーカイブ事業者
----	---------------------------------------------------------------------------------

Output 支援内容

1日目 現地	<ul style="list-style-type: none"> 【博物館】DA構築の希望と課題を共有 【専門家】フローや公開方法を説明 【双方】収蔵品の確認後、三次元データ化と公開方法を議論
2日目 オンライン	<ul style="list-style-type: none"> 【専門家】三次元計測とモデル化の講義を実施 【博物館】公開方法や情報選択を相談 【双方】次回に向けて、博物館が手順と役割分担の素案を作成する旨で合意
3日目 オンライン	<ul style="list-style-type: none"> 【専門家】無料ソフトウェアの説明を実施 【博物館】デジタルアーカイブの手順や役割分担、データ管理方法について相談

Outcome 支援結果

伴走支援の結果、デジタルアーカイブ構築、三次元計測とモデル化、公開のそれぞれに対して、**館にとって最適なシステムを特定することができた**

参考：昨年度支援事例 ②展示・広報分野

- SNSやテレビ・ラジオでのPRで伸び悩みを感じる博物館に対して、広報広告に関する知見と実績を有する専門事業者が支援を行った結果、博物館は今後実施すべき具体的な施策の内容を策定することができました

Player① 博物館

名称	岐阜かかみがはら航空宇宙博物館
所在地	岐阜県各務原市
来場者数	260,134 名（2024 年度）
館種	理工
設置者	都道府県・市町村 ※共同運営
法区分	指定施設
課題	<ul style="list-style-type: none">• HP や SNSをベースに対外的な広報活動を行っているが、SNSはフォロワー数が伸び悩み状況• 2024年度のテレビ取材は8回（うち県外からの取材は2回）と、テレビやラジオについても伸び悩んでいる状況

Player② 専門家

概要	<ul style="list-style-type: none">• 広報広告に関する知見と実績を有する専門事業者
----	--------------------------------------------------------------------------

Output 支援内容

1日目 現地	<ul style="list-style-type: none">• 【博物館】施設内展示品の確認と案内• 【双方】SNS使用の目的確認・現状分析の共有• 【専門家】聞き取りを踏まえて提案• 【双方】提案に関する意見交換と質疑応答
2日目 オンライン	<ul style="list-style-type: none">• 【専門家】SNS投稿作業の困難に対してのアドバイス、アナリティクス分析結果のフィードバックと改善アドバイスを実施• 【双方】HP解析についてトレーニング
3日目 オンライン	<ul style="list-style-type: none">• 【双方】SNSの企画展開、アナリティクス分析のフィードバック、PR活動の具体的なアクション方法について意見交換

Outcome 支援結果

<ul style="list-style-type: none">• 今後実施すべき施策の内容を策定することができた• マスメディアに取材されるような方法（打ち手）についても整理をすることができた

参考：昨年度支援事例 ③ファンドレイジング分野

- ・ 賛助館員を獲得するための営業活動が十分にできていない博物館に対して、広報・ファンドレイジングの実績を多数有するファンドレイジングコーディネーターが支援を実施し、博物館側の会員制度の見直しが進んだほか、パンフレット更新や活動の見直しへも繋がりました

Player① 博物館

名称	アートギャラリーミヤウチ
所在地	広島県廿日市市
来場者数	2134 人（令和 6 年度）
館種	美術
設置者	私立
法区分	指定施設
課題	<ul style="list-style-type: none">・ 企画展やイベントを充実させ、来館者の鑑賞体験を深める試みを進めているが、主な財源である 賛助会員を獲得するための営業活動が十分にできていない

Player② 専門家

概要	<ul style="list-style-type: none">・ 広報・ファンドレイジングの実績を多数有する、ファンドレイジングコーディネーター
----	-------------------------------------------------------------------------------------------

Output 支援内容

1 日目 現地	<ul style="list-style-type: none">・ 【専門家】会費募集と寄付の講義を実施、他館事例や課題をリスト化・ 【博物館】展示案内と使用ツールを確認・ 【専門家】感謝を伝える活動の講義を実施
2 日目 現地	<ul style="list-style-type: none">・ 【専門家】支援第 1 回の内容を踏まえ、博物館・専門家が博物館の特徴や強みを書き出すワークショップを実施
3 日目 現地	<ul style="list-style-type: none">・ 【双方】館の紹介のための情報整理を実施・ 【双方】賛助会員特典内容を見直し、特典表の素案を作成

Outcome 支援結果

- ・ 財団の取り組みや特徴を理解することが寄付集めに重要であることへの理解することができた
- ・ 会員制度の見直しと特典プランの作成が行われ、**パンフレット更新や活動の見直しへも繋がった**

3. ご依頼の条件

3. ご依頼の条件

(1) 事業期間

- 8月中に専門家採択と博物館とのマッチングを実施し9月以降、順次支援を開始していただきます
- 支援の終了日は2月末を厳守とし、3月末までにレポート等の書類を提出していただく予定です

本事業における想定スケジュール

スケジュールの留意点

2025（令和7）年

- 7/18（金） 博物館向け説明会開催
- 7/18（金） 博物館募集開始
- 7/31（木） 専門家募集開始**
- 8/10（日） 博物館募集終了
- 8/14（木） **専門家募集終了**
- 8/14（木） **専門家採択・マッチング開始**
- 8/31（日） **専門家採択・マッチング終了**
- 9/ 1（月） 順次派遣支援開始

事業用HP上に登録用URLを貼付

選考途中で電話やオンライン面談を実施する可能性あり（詳細後述）

年度内完了が必須のため期間厳守

2026（令和8）年

- 2/28（土） 派遣支援期間終了
- 3/31（金） 報告確認手続き終了

3. ご依頼の条件

(2) 支援時間 ①概要

- 支援時間については、時間単位での計算となり、個別館は最大30時間、関連団体等は最大150時間となります
- 往訪は、1施設あたり最大3日までとします

種類	支援時間	現地応訪
博物館	1施設 最大30時間 まで *1 *2	1施設 最大3回 まで往訪可能*3 *4
博物館関連 団体等	1団体 最大150時間 まで*1 *2 -加盟の個別館は 最大30時間 まで	

*1 往訪に加えて、**オンライン会議や電話・メールでの支援も認めるなど、幅広い支援方法を対象**

*2 専門家が支援するにあたり必要となる**準備時間や支援レポート作成等の時間も含む**

*3 事業の実効性を確保するため、**往訪の際は1回あたり3時間以上（移動時間除く）の支援の実施を想定**

*4 関連団体については、事務局機能を有する団体への支援と、加盟する個別館（**最大5館**）それぞれに対して**最大3回ずつ往訪可能**

3. ご依頼の条件

(2) 支援時間 ②個別館支援の例

- 支援時間の中には専門家の準備時間とレポート作成時間を含み、博物館と専門家にて時間の使い方を調整していただきます
- 準備時間とレポート作成は支援時間の半分以下にさせていただくことを想定しております※

個別館の支援における専門家の支援時間の使い方の例（デジタルアーカイブ分野）

カテゴリ	内容	支援方法	時間
準備	研修準備	-	3時間
支援	専門家によるデジタルアーカイブ研修	現地①	3時間
レポート作成	支援レポート作成	-	1時間
準備	専門家による目録分析作業	-	5時間
支援	博物館現地にて目録整理の実習を実施	現地②	5時間
レポート作成	支援レポート作成	-	2時間
支援	メールで博物館からの問い合わせに対応	メール	1時間
支援	実習後のオンラインでの質問会を実施	オンライン	2時間
支援	作業に関する電話相談	電話	1時間
レポート作成	支援レポート作成	-	1時間
支援	博物館側が手掛けた目録サンプル作業に対して助言・コンサルテーションを実施	現地③	4時間
レポート作成	支援レポート作成	-	2時間

※支援時間のうち、博物館への支援時間が著しく少ない場合には、事務局が支援内容・時間配分等について調整させていただく場合がございます

準備・レポート作成時間	14時間
支援時間	16時間
合計時間	30時間

3. ご依頼の条件

(2) 支援時間 ③ 関連団体支援の例

- ・ 個別館と同様に、支援時間の中には専門家の準備時間とレポート作成時間を含み、博物館と専門家にて時間の使い方を調整していただきます
- ・ 準備時間とレポート作成時間は支援時間の半分以下にさせていただくことを想定しております※

連携・加盟館の支援における専門家の支援時間の使い方の例

カテゴリ	内容	支援方法	時間
準備	事前準備	-	4時間
支援	現地視察	現地①	5時間
レポート作成	支援レポート作成	-	1時間
準備	支援準備	-	4時間
支援	ディスカッション	現地②	3時間
レポート作成	支援レポート作成	-	1時間
準備	支援方法検討	-	3時間
支援	メール相談	メール	1時間
支援	オンライン相談	オンライン	2時間
レポート作成	支援レポート作成	-	1時間
支援	ディスカッション	現地③	4時間
レポート作成	支援レポート作成	-	1時間

+

関連団体の支援における専門家の支援時間の使い方の例

カテゴリ	内容	支援方法	時間
準備	研修準備	-	5時間
支援	全体研修	現地①	5時間
レポート作成	支援レポート作成	-	1時間
準備	研修準備	-	3時間
支援	全体研修	現地②	3時間
支援	メール相談	メール	2時間
レポート作成	支援レポート作成	-	1時間
準備	支援準備	-	4時間
支援	相談会	オンライン	3時間
支援	メール相談	メール	2時間
レポート作成	支援レポート作成	-	1時間

=

準備・レポート作成時間	75時間
支援時間	75時間
合計時間	150時間

※支援時間のうち、博物館・関連団体等への実際の支援時間が著しく少ない場合には、事務局が支援内容・時間配分等について調整させていただく場合がございます

3. ご依頼の条件

(3) 支援人数

- 派遣される専門家は原則 1 名とし、支援途中での専門家の交代は不可とします
- 例外的に複数人での支援、複数人での交代での支援を認める場合がありますが、いずれの場合も事務局にてマッチングを行います

- 派遣専門家による支援の実効性を高めるために、支援期間を通じて**原則同一の 1 名を派遣**することを想定しています。（法人で支援を実施する場合は、同一法人内での交代を認める場合もあります。）
- 関連団体の支援については、支援時間が長く設定されているため、複数の専門家の方に分担して支援をお願いする可能性もあります。（事務局内にてマッチングを実施します）

3. ご依頼の条件 (4) 謝金の考え方

- 専門家の皆様に対する謝金・実費は文化庁の単価表に準じ、支援時間を積算のうえ、算出する形を取る予定です
- 謝礼は原則、指導・実技・実習等の時間単価を適用し、関連団体等支援における全体研修・ワークショップのみ講義・講演の謝金を適用します

■ 専門家への謝金設定



基本的な考え方

- ✓ 文化庁謝金単価表に基づき、単価を設定

- ✓ 支援時間を専門家から提出いただく
- ✓ 支援準備・支援後の簡易レポート作成等にかかった時間も支援館に含める
- ✓ 移動時間・休憩時間は含めない

- ✓ 交通費・宿泊費は実費支給
- ✓ ただし諸条件は別途定める

詳細事項

分類	時間単価
指導・実技・実習等（準備・支援レポート作成を含む）	5,200円
講義・講演 ※関連団体等支援における全体研修・ワークショップの本番のみ適用（準備時間は指導・実技・実習等の扱いとなる）	8,050円

分類	上限
支援時間（実際の支援時間の他、準備時間・レポート作成を含む）	個別館： 最大30時間 関連団体等： 最大150時間

分類	上限等
交通費	原則、公共交通機関の普通席のみ乗用車の利用は要相談
宿泊費	遠方での宿泊が必要な場合に支給都道府県によって上限金額の差異あり

4. 募集要項

4. 募集要項 (1) 募集数

- 各分野における専門家を最大10者ほど募集いたします

テーマ

デジタルアーカイブ、
コンテンツ造成支援、
知識・技術の提供

展示や広報発信の
改善を行うための支援、
知識・技術の提供

ファンドレイジング活動
支援、知識、技術の提供

各テーマにおける具体的な支援内容



- 博物館におけるデジタルアーカイブの作成やDXに資するような整備、資料の価値や魅力を伝えるためのコンテンツ造成などの支援



- 博物館の持つミッションや目的に沿った効果的な展示や、観覧者の満足度を向上させるための支援
- 博物館が有するコンテンツや魅力を最大限伝えるために広報発信の改善を行うための支援



- 運営資金獲得方法の多角化、特定事業の財源獲得等を通して、博物館活動の充実につなげるための、戦略的かつ持続的なファンドレイジングに関する支援

募集人数

各テーマ最大10者ほど

4. 募集要項

(2) 応募対象者

- 個人・法人共に応募は可能ですが、公的事業に参加する上での最低限の条件を満たしている方、本事業で支援対象とする3つのテーマのうち、いずれかにおいて支援実績・事業実績を有する者方本事業の趣旨を理解し、事務局の指示に従って支援を行うことができる方を募集いたします

応募対象者の条件（再掲）

- 個人・法人は問わない
- 公的事業に参加する上での最低限の条件を満たしている者
 - 暴力団（暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）第2条第2号に規定する暴力団をいう。以下同じ。）又は暴力団員（同法第2条第6号に規定する暴力団員をいう。以下同じ。）でない者であり、かつ暴力団又は暴力団員に関与していない者
 - 応募時点で文部科学省の支出負担行為担当官等から取引停止の措置を受けている期間中でない者
- 本事業の3つのテーマのうちいずれかにおいて十分な支援実績、あるいは事業実績がある者（必ずしも博物館を対象にしたものに限らない）
 - デジタルアーカイブ、コンテンツ造成支援、知識・技術の提供
 - 展示や広報発信の改善を行うための支援、知識・技術の提供
 - ファンドレイジング活動支援、知識、技術の提供
- 博物館を支援するための十分な資質・経験を持つ者
- 本事業の趣旨について理解し、事務局の指示に従って支援を行うことができる者

4. 募集要項

(3) 応募に必要な項目(1/2)

- 本事業HP上の「専門家公募」ページのフォームに、下記の項目を記入して応募してください

応募に必要な項目項目

カテゴリ	項目	概要
基本情報	氏名・法人名	• 個人であれば個人名、法人であれば法人名
	担当者名	• (法人のみ) 本件の担当者名
	電話番号	• 応募者・担当者の電話番号
	メールアドレス	• 応募者・担当者のメールアドレス
	住所	• (個人) 住所 • (法人) 本社所在地
	所属	• (個人) もしあれば所属企業等 • (法人) もしあれば事業部等
	支援予定者の氏名・経歴	• (法人のみ) 採択された場合に、支援に当たる可能性がある方の氏名と経歴
	設立年	• (法人のみ) 法人の設立年
	資本金	• (法人のみ) 法人の資本金
	反社チェック	• 暴力団（暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）第2条第2号に規定する暴力団をいう。以下同じ。）又は暴力団員（同法第2条第6号に規定する暴力団員をいう。以下同じ。）でない者であり、かつ暴力団又は暴力団員に関与していない者であることを確認
	取引停止確認	• 応募時点で文部科学省の支出負担行為担当官等から取引停止の措置を受けている期間中の者でないことの確認を実施

4. 募集要項

(3) 応募に必要な項目 (2/2)

- 本事業HP上の「専門家公募」ページのフォームから下記応募項目を記入して作成してください

応募に必要な項目

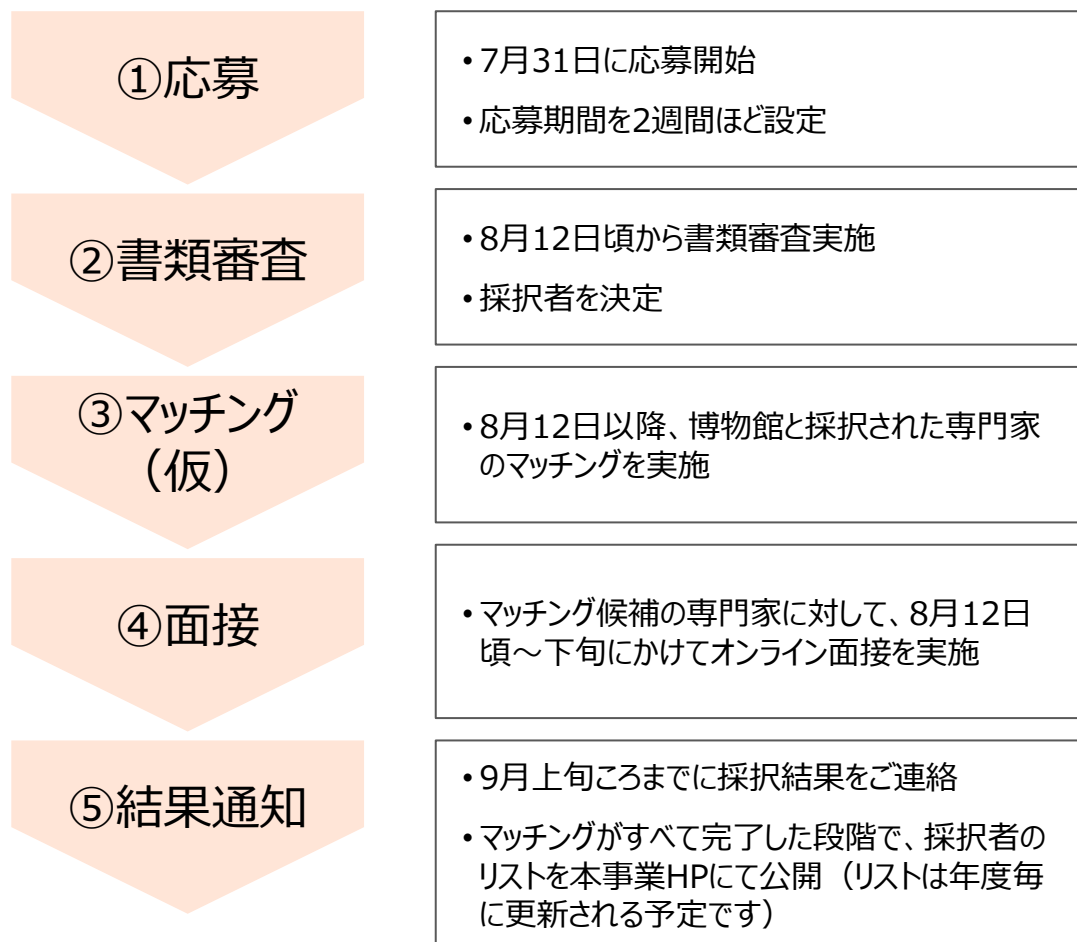
カテゴリ	項目	概要
書類審査 (適格性判断)	支援可能なテーマ	• 3つのテーマの中からひとつ選択
	支援可能な小テーマ	• 各テーマの中で支援可能な領域を複数選択
	支援していただける内容	• 事業者になった際に可能なメニューについて小テーマを選択、必要に応じて補足してください
	選択したテーマに関する実績	• 「〇社以上に対してデジタルアーカイブのスキャン化を支援」というような具体的な支援実績を記載してください
	所有される資格	• (個人) 支援テーマに関連する資格をお持ちでしたらご記入ください • (法人) 実際に支援に参画される予定の方で、支援テーマに関連する資格をお持ちの方がいらしたら、氏名と資格をご教示ください
マッチング時の参考情報	スケジュールに関する希望	• 9月から2月までの支援期間のうち、現時点で既に長期間都合の悪い日程等があればご記入ください
	支援可能な博物館数	• 個別館の支援は何館程度か (最大10館程度)
	関連団体への支援の可否	• 最大150時間、全体研修+5館程度の個別館支援は可能か
	本社以外に支援者を派遣できる拠点の有無	• (法人のみ) 記入いただいた住所以外に、本事業に支援者を派遣できる拠点があれば教えてください
	支援不可の地域	• (個人のみ) 支援不可の地域があれば教えてください
	本事業にご支援いただける可能性のある方の人数	• (法人のみ) 本事業に従事していただける可能性のある方の人数
	支援候補者として採択された場合の公開可否	• 本公募で支援候補者として採択された場合の、専門家として氏名・事業者名の公開に関する希望
その他	備考	• (任意) その他事務局に伝えたい事項

4. 募集要項

(4) 応募後の流れ・スケジュール

- ご応募いただいた皆様には、支援候補者としての採択・不採択の場合いずれにおいても結果をご連絡いたします
- 書類審査を通過し、マッチングが成立した専門家には、個別に面接を実施し、事業の説明や質問の時間を設定させていただきます

おおよそのスケジュール



4. 募集要項

(5) よくある質問

- 本事業についてよくある質問と回答を記載しております
- 不明点は事務局までお問い合わせください

よくある質問

回答

Q1

準備時間に対して謝金は支払われますか

支払われます。準備・支援・レポート作成に対して、個別館は最大30時間、関連団体等は150時間までとなります（p22参照）

Q2

移動時間に対して謝金は支払われますか

支払われません。ただし、移動時間中に準備を実施した場合には、謝金対象になります。

Q3

支援は何人で行うものですか

支援は原則一人で行っていただく想定です。（p25参照）

Q4

謝金の「講義・講演」とは何ですか

関連団体等支援時に、全体への研修・ワークショップを行う本番の時間のみ「講義・講演」という謝金単価になります

Q5

専門家による経費負担はありますか

原則ありません。負担が発生する場合には博物館にてご負担いただく想定です。

Q6

どのような専門家が採択されますか

募集テーマに関する十分な実績を有する専門家を採択とします。なお、採択された場合に、博物館の申請状況によって、本年度事業の支援をご依頼しない場合があります（p6参照）。結果に関するお問い合わせは受け付けない旨ご承知おきください。